

2020年8月20日

株式会社キトー

本日2020年8月20日に実施いたしました2021年3月期第1四半期決算説明会での質疑の要旨を、下記のとおり公開いたします。

質問1：米国にてシェアが上昇している要因を教えてください。

回答：これまでお客様に提供してきた製品、サービス等も含めた総合的な付加価値を市場でご評価いただき、競合他社に対して優位なポジションが築かれた結果だと思っている。競合先は経済の変動によって、ドラスティックに施策を打ってくる。一方で当社は需要環境が悪化しても、お客様に対し丁寧なサービスを継続しているところも好感され、シェア拡大に繋がっているものと考えている。

質問2：今年度の設備投資25億円の内容を教えてください。

回答：生産設備への投資が主で、大きく3つに分類される。

- ・まず工場を運営するためのユーティリティーなど、老朽化設備等の更新、
- ・次に将来に向けたコストダウン、生産性の向上のための生産設備への投資、
- ・併せて重要性の高まっている環境負荷低減に向けた投資、

これらを合計で20~25億円程度を現時点で計画している。バブル以前は需要拡大期に積極的に設備投資を行った結果、以後の需要低迷期に償却費の負担が重く、事業が厳しい状況に追い込まれた経験がある。この経験を元に、経済環境が大きく変動する場面では、設備投資を慎重に吟味している。現時点で計画している設備投資は、需要が大きく低下するなかでも、確実に効果を発揮し、事業の改善に寄与することが見込めるものを優先し計画している。

質問3：日本国内で費用削減が奏功した理由を教えてください。

回答：当社の事業は、内製比率が高いことで比較的、固定費率の高いこと、経済や市場動向に対して業績が3か月程度遅延すること、といった特徴がある。今回は、急激な経済活動の低下と事業環境の変化に合わせ、極めてタイムリーにコスト削減することができた。営業経費や出張費など、コロナ禍での制約による費用減もあるが、特に効果が出たのは、3年前にITインフラを刷新し、生産活動、オペレーションに係るコストの見える化が進んだ結果、生産量が低下するなかでタイムリーにコスト削減策を打つことが出来た。

質問4：来期についてコロナの影響はどう見ておられますか。

回答：現時点での予測は大変難しい。期初のシナリオは、ピークに対して上期で30%のマイナス、それから徐々に回復し、下期で10%のマイナス、来期はほぼ正常化した経済活動が営める、との見立てであった。しかしながら需要環境は来期においても、ピークのレベルまでの回復は難しいと現時点で想定、おそらく長期化し、場合によっては過去のような経済活動の水準には戻らないかもしれないと言った危機感を持っている。そういった事業環境においても、着実に利益を過去の水準まで戻していける可能性は十分にあり、トップラインの急回復を期待するシナリオではなく、着実に利益を拡大していくような事業運営を、来期も実施していきたいと考えている。

質問5：欧州買収企業とのシナジーが遅れる可能性はありますか。

回答：現地とのコミュニケーションは、Web会議等により、コロナ感染拡大前以上に、頻繁に行っている。需要環境が低迷している状況下、買収した企業とのシナジーの創出は、事業拡大施策として非常に重要な位置づけとしており、以前よりも、グループ全体として、注力しており、欧州事業を含めた、グループ全体としてのシナジー創出は、むしろ加速する方向。

質問6：当期純利益の増減要因の一端となる法人税については、日本単独の利益が増加することで、税効果の恩恵を得られると言うことでしょうか。

回答：ご理解のとおり。日本の単独の利益（課税所得）が拡大することによって、税効果を得られる額が大きくなるので、結果として法人税の負担が減少し、当期純利益の改善効果が期待できる。

本件に関するお問い合わせ

株式会社キトー

コーポレート・コミュニケーション部

TEL: 03-5908-0161

MAIL: ir@kito.com